## 令和3年度　学校関係者評価書 （新富町立富田中学校）

4段階評定　　4：期待以上　　3：ほぼ期待どおり　　2：やや期待を下回る　　1：改善を要する

| 項目 | | 評価指標　及び　具体的目標 | 方策と手立て | ※自己評価 | | 結果の考察・分析及び改善策等 | 評価委員評価 | 学校関係者評価委員の意見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 学力の定着と向上 | (1) | 「本時のねらい」を確実に定着させる授業を実践する。 | ○　学校支援訪問の重点支援校訪問を核にして、日々の授業の中で継続的な実践と検証を行う。 | 3.0 | 3.0 | ○　授業の冒頭で「ねらい」または「学習課題」を板書し、授業の終わりに「まとめ」をしたり練習問題を解いたりするという基本的な流れを職員が足並みを揃えて実践したことで、見通しをもって学習に取り組ませることができた。<br>○　日々の授業での取組を年間3回の学校支援訪問で再チェックした。また、指導助言者からのアドバイスを以後の授業に取り入れた。こうした実践を年間にわたって継続したことで、職員の授業力が向上し、学力の向上も認められた。<br>○　職員が相互に授業を参観したり協力して指導をしたりすることが増え、組織的に生徒の指導にあたる機運が向上した。<br>　タブレットの活用法についての職員研修も行い、各教科等で有効に活用されている。今後も、様々な活用法を職員が相互に紹介し合うことで活用の幅を広げていきたい。ただ、校内外のネットワークの不調や不安定さもあって、一部またはすべての生徒の使用が中断するケースがあること、大型テレビや教師用タブレット端末の台数が不足していることなどが今後の課題である。 | 3.0 | ○　授業の「ねらい」や「学習課題」、「学習内容」と関連するが、学習内容と実社会での関係性を対比しながら授業を行ってみてはどうか。<br>○　国語教育でのタブレット活用の重要性についての研修状況が知りたい。次年度に検討してほしい。<br>○　保護者と生徒のアンケートを見ると、学力の定着と向上について、保護者は何が一番重要かという考え方で回答しているのではないかと思う。一方、生徒は複数回答である。アンケートの分析をさらに進めて考察を進めてほしい。<br>○　ゲームをやることを認めつつ、家庭学習もやるという自己管理力を育てる実践例もある。興味のあることから、とっかかりをつくることも1つの方法ではないか。<br>○　昔は、宿題を与えられていたが、今は自分たちでやることを要求される。その点では、タブレットはやり方がわからない子どもには有効な方法ではないか。 |
| | (2) | 振り返りや補充の時間の確保に努めるとともに、生徒がその教科を好きになるような授業を行う。 | ○　1時間や単元単位でのタイムマネジメントを的確に行う。<br>○　各教科の特徴を生かして創意工夫し、授業の魅力アップに努める。 | 3.1 | | | | |
| | (3) | タブレット端末等のICTを活用して、教育効果を高める研究を推進する。 | ○　職員研修のICT研究班のメンバーが先導的に活用に取り組み、他の職員に紹介やアドバイスなどを行うことで全職員が足並みを揃えて活用する。 | 2.6 | | | | |
| 2 豊かな人間性の育成 | (1) | TPOに応じた行動様式や適切なコミュニケーション能力を身に付けさせる。 | ○　自分の考えを適切に伝え、相手の考えに耳を傾けて互いに納得するような対応力を身に付けさせる。 | 2.8 | 2.9 | ○　発達段階にふさわしい言動ができるように、その場その場での指導を繰り返して行った。また、学級活動等において、話し合いのスキルやコミュニケーションの在り方を指導した。今後も継続していく必要がある。<br>○　学校行事や日常の活動において、多くの中止や制約があり、生徒が活躍できる場面が従来よりも減っている。そうした限られた中ではあるが、体育大会や合唱コンクール、部活動、係活動などにおいて、生徒が自分の個性を発揮できる場づくりに努めた。また、生徒の活躍の証である賞状や新聞記事などを生徒玄関前に掲示して讃えた。<br>○　生徒や保護者への2回のアンケート結果では、「学校が楽しい」「友達と仲よく学校生活を送っている」という回答が多い。今後も生徒一人ひとりの様子を丁寧に見守り、適切な手立てをとっていきたい。<br>○　定期的に「いじめアンケート」や教育相談を行った。また、スクールカウンセラーやSSW、行政の相談窓口などを周知 して、様々な立場から生徒の悩みや困り感の把握と解消に努めた。 | 3.1 | ○　中学校での学習や体験は、いろいろな進路選択のきっかけになる。自由な発想をまとめる力が身につく様にしてほしい。また、自主性、種々のリテラシーを学習から身につけることも進めてほしい。<br>○　生徒のアンケートの中にある「学校に来ることが楽しい」と思える生徒が多いのは素晴らしい。<br>○　現在、授業が理解できる生徒と理解できない生徒の差が大きい。「ほめて育てる」教育を進めてほしい。<br>○　見えないいじめの把握について今後も継続して進めてほしい。生徒アンケート、年輪(日記)の記述内容、部活動の顧問からの情報などいろいろな情報から探ってほしい。<br>○　今後も不登校を減らすために民生委員との連携など地域の方の力（地域力）を活用してほしい。現状でもSSWとの連携は十分に進んでいる。 |
| | (2) | 達成感や自己肯定感（有用感）、学校生活への満足感を高める。 | ○　生徒一人一人が活躍できるような場の設定に努める。<br>○　「学校生活が楽しい」と感じる生徒を増やす。 | 3.0 | | | | |
| | (3) | いじめや不登校の未然防止や的確な初期対応を行う。 | ○　日常の観察や「いじめアンケート」実施、相談窓口の紹介などによって、いじめの早期発見を期す。<br>○　不登校の未然防止や的確な初期対応を行う。 | 3.0 | | | | |
| 3 体力・健康の増進及び安全管理の徹底 | (1) | 主体的に健康を管理する態度を育てるとともに、適切なメディア利用法を身に付けさせる。 | ○　教育活動全体を通して、食事や運動、睡眠等を適切に管理 させるとともに、ゲームや通信機器の適切な使用法を繰り返し指導する。 | 2.8 | 3.0 | ○　保健体育の授業や学級での指導において、健康的な生活リズムを身に付けさせる指導を行った。また、「年輪」や個別面談等を通して、個々の状況把握と必要な指導に努めた。ゲーム機やスマートフォン等の通信機器の長時間使用が生活リズムや学習に影響を及ぼしている傾向もあり、今後も保護者と連携しながら対応していくことが大切である。<br>○　保健体育の授業において、内容や手段を工夫して指導してきた。運動部活動にも熱心に取り組んでおり、各種の大会で好成績を収めた。<br>　新体力テストの結果は、A判定の生徒が3年11名→22名、2年18名→25名、1年15名となり、向上が認められる。生徒の体力向上の意識を向上させるため、3学期にはシャトルラン等を実施して更に体力の向上を図っている。<br>○　毎月始めに安全点検を実施して、けがや事故の防止を徹底した。避難訓練は、火災や地震・津波、不審者侵入対応などの様々な事態を想定して、今後も繰り返し実施していきたい。<br>○　新型コロナウイルス感染症予防のために、マスク着用や換気、給食の黙食などを徹底するとともに、保護者とも緊密に連携を図った。 | 3.2 | ○　家庭での学習について子どもと保護者の認識の一致がアンケートの回答割合から見える。ゲームと勉強は、表裏一体の関係になる。時間の配分、時間のけじめ、優先順位の付け方が鍵になるのではないか。。<br>○　ゲームをやりたい理由は、勝ったことに対する達成感、勝ったことに対する喜びがあるからである。現在の家庭環境では、集中力を育成するのが難しい状況がある(例:食事中のテレビなど)。生徒は、興味があることに対しては、集中して取り組む。生徒が、なぜゲームに没頭するかを分析してみてはどうか。<br>○　新体力テストの結果が大きく伸びている点は評価できる。更に向上に努めてほしい。<br>○　全員の避難訓練を消防団も交えて実施してはどうか。3月11日のことを風化させないようにしてほしい。<br>○　避難訓練、防災学習を通して、自らの命を守る事ができる生徒の育成を進めてほしい。 |
| | (2) | 進んで運動に親しむとともに、体力の向上に努めさせる。 | ○　体育の授業や運動部活動を通して、主体的に運動に親しませるとともに、新体力テストの結果等で状況の把握に努める。 | 3.3 | | | | |
| | (3) | 交通安全や地震、津波、火災等への対応などの安全教育を推進するとともに、定期的な安全点検や安全管理を徹底する。 | ○　毎月始めに職員による安全点検を行い、実態に即して迅速に対応するとともに危機意識をもって施設設備の管理を行う。<br>○　避難訓練を通して適切な行動力を身に付けさせる。 | 3.0 | | | | |
| 4 信頼され期待に応えるる学校づくり | (1) | 服務規律を徹底する。 | ○　職員のコンプライアンス自己チェックを毎月実施する。<br>　自分の姿や言動が「生徒にとっての生きたキャリ ア教育」である という自覚を深めさせる。 | 3.1 | 3.0 | ○　職員のコンプライアンス自己チェックに関しては、職朝や職員会で振り返りや具体的な指導を行った。また、1学期、2学期の終わりに、コンプライアンス研修を行い、更なる意識高揚を図った。<br>○　職員が自身の職務に関して、現状の把握、必要な改善策の検討、他の職員への提示やリードといったサイクルを適切に行う機運を醸成した。<br>○　教職員評価制度におけるミーティング等を通して、個々の考えを理解するとともに、状況に応じた支援等を行った。超過勤務の削減に向けて合理的な職務遂行を推進しており、今後も継続していきたい。<br>○　学校全体では、学校だより「富田の風」を通して情報発信を行った。ホームページは、学校生活の様子を具体的に伝えることや保護者にとっての利便性を重視して更新した結果、閲覧数が飛躍的に増えた。また、安心メールの活用により、タイムリーな情報発信を行うことができるようになった。中体連大会の結果連絡など保護者が知りたい情報、伝えておきたい情報を積極的に配信した。 | 3.0 | ○　コンプライアンスを含め、先生方が良く研修されている事に感心した。<br>○　GIGAスクール構想によるタブレットの導入により、教育現場での職員研修が、さらに必要になると聞いている。ライフステージを見据えて、タブレットの活用に関する研修を積極的に進めてほしい。<br>○　コロナ禍ということもあり、なかなか取り組みにくい年であったと思う。今後日常がもどった時には地域との連携を拡大してほしい。また、今後も積極的な情報発信を進めてほしい。<br>○　「富田の風」やHP、安心メールの活用については、保護者も喜ばれている。さらにいろいろな発信の方向を探ってほしい。 |
| | (2) | キャリアデザインの具現化と効率的で質の高い職務遂行を図る。 | ○　ライフステージを見通した課題や目標の明確化と自己啓発を進める。<br>○　望ましいWork-Lifeバランスを実現する。 | 2.9 | | | | |
| | (3) | 積極的な情報発信を行う。 | ○　学校だより等の紙媒体による情報発信を推進する。<br>○　ホームページによる情報発信や安心メールによる情報共有を推進する。 | 3.1 | | | | |

※大項目の自己評価は、(1)～(3)の各項目の平均ではなく、大項目全体に対する自己評価平均です。そのため、大項目の評価値と小項目の評価値が一致しないことがあります。